れるもの仍て諸種物語は其形成されたる時代の思想・風俗を見、當代の政治・國家觀を窺ふべく、上代國家組織の根本精神の表現として至大の價値あるもの、歴史事實を語る歴史としてよりも寧ろ詩として見るべし、而も詩は歴史よりも却つて國民の内生活を告るものなるを著者根本思想として主張せんとするものなるが如し。

（落陽堂發行、價四、五〇）［西田］

Frederick Armitage: The Old Guilds of England.

（Weare & Co. London, 1918）

本書は英國に於けるギルド發達の歴史を簡略に叙述せる册子にして、專門的の研究や獨創の見解を發表せしものにはあられど、往時のギルド生活を一般に亘りて知了するに便宜なる著述なり。先づ諸種のギルド中最初に發達したる宗教的組合（Religious Guids）より始めて、商人組合（Merchant Guilds）、職工組合（Trade Guilds）の成育を説きそれよりロンドン諸組合建造業組合及び蘇國愛關諸組合、大陸諸地方のギルドを觀察して篇を結べり。この著述の特色と觀るべきは、他の法制史的經濟史的見地よりせる質實乾燥なる研究書に比し、割合に趣味を加へ、文藝作品例へばChaucer, Shakespeareなどの句を引用してギルド組合の實生活を可成活々と讀者の印象に留めんとしたること、諸組合中にても特に職工組合の叙説に重きを置けるとの二點なるべし。尚ギルド組合のことのみに局限せず、中世英國に於ける經濟生活社會生活、并びに歴世統治者の對都市對商工民政策の一班も本書の通讀によりて聊か窺知するを得べからん。

Pavel Nicolaïevitch Milinkov: Le Mouvement Intellectuel Russe. Traduit du Russe par J.-W. Bienstock (paris 1918)

ミリューコフ氏は現代露西亞の智識階級中屈指の人物たるや云ふ迄もなし。夙にモスコウ大學出身の學徒として史學社會學に造詣深きのみならず、專制政府に反對して自由民主々義を稱ふる言論界の雄として毎期の國會に重きをなし第一次革命政府の外相たりしこと周知の事實なるべし。本書は前世紀來露西亞社會の指導者啓發者たる位置にある智識階級の運動を論述せるものにして、アクザコフ（Aksakov）に初まり、スタンケヴィッチ（Stankevitch）ビエリンスキ（Bienlinski）ヘルチェン（Hertzen）グラノヴスキ（Granovski）の諸氏を列叙して、最後にスラヴ主義の末流たるダニレヴスキ（Danilevski）レオニチエフ（Leonitiev）ソロヴィエフ（Soloviev）を説き、卷頭別に、十八世紀前半ペートル二世殂落後に於けるガリチン公（Galitzine）を中心とする貴族一派の試みたる專斷君主權制限の企畫を論ずる一篇を附せり。各章に亘つて流石に氏一流の明快なる論斷卓拔なる觀察隨處に閃き居れるが如し。

就中最終のスラヴ主義の崩潰を説ける部分は余輩の最も興味深く讀了せし所にして、ヘーゲル流の獨逸哲學の影響を受けて勃興し來りし該思想は其根本に於て相容れざる國粹主義と世界史的主義とが抱合し居るを以て其分裂崩潰は免れ難き所なるを論じたる邊は大に傾聽すべきものなるべし〔以上槙村〕

支那佛教遺物　　松本文三郎著

四六版三百頁、挿入圖版二十三頁の册子にして、著者が大正六年夏秋に亘り佛教關係の遺跡遺物を探りて支那内地を旅行せる際、調査せる所の事實を叙し、また是に研究考證を加へて歸來諸雜誌に發表せる論文を纒めたるものなり。收むる所先に本誌に載せられし支那歴游記略を初として支那佛教の現狀、西安懷古、支那佛教の遺物、大同の佛像、石經、經幢、物語繪の淵源、六朝時代の彫像題銘より見たる淨土思想に至る九編、何れも著者が深き研究に成れるもの、挿入の圖版と併せ看て興趣深し。特に文中「大同の佛像」を論じて、これに三種の樣式上の別あるを説き、其の系統を明にせるが如き、我が物語繪の起源を辿りて印度に之を求めたるが如き、又石經に關する研究を總括せるが如き最も見るべきものゝ一なり。支那佛教藝術の探求者に裨益を與ふる蓋し大なるべし（價二・六〇〇、大燈閣發行）

古蹟調査特別報告　第一册　　朝鮮總督府

朝鮮總督府の大正五年度の古蹟調査に於いて最も興味ある結果を齎せる平壤附近の樂浪時代の墳墓に就いて、關野、谷井兩委員、栗山、小場、小川、野守諸氏の提出せる報文、寫眞、實測圖を收めたるものにして、四六倍版、本文四號活字十六頁、挿圖六十三圖、地圖一枚より成る。報文は先に刊行せられたる「大正五年度古蹟調査報告」載する所の關野委員の平安南道大同郡順川郡、及龍岡郡古蹟調査報告書の第一章と殆んど同一の簡單なるものなれど、此の册に於いては、其の構造に依り（一）木槨を有する墳墓、（二）木槨の底部及び四圍に玉石を詰めし墳墓、（三）木槨外部を塼にて包みし墳墓（四）塼槨にして木製の天井を有せし墳墓、（五）塼槨にして穹窿天井を有する墳墓、（六）塼の殘缺を以て槨を造れる墳墓に分ちて記載せり。挿圖の内最も重要なるは是等古墳の實測圖にして、外形、構造、遺物の配列等に亘り精密なる製圖を載せ、版は主として玻璃版なるも、石版色刷をも併せ用ひて其の鮮明を期し、所收の寫眞と對比せば遺蹟の狀態瞭然たり。蓋し近く此の報告の第二册として刊行の豫定なる出土遺物の解説と相待ちて、貴重なる遺蹟の完全なる報告書が成すものと見るべし。（非賣品）

奈良縣史蹟勝地調査會報告書　第六回　　奈良縣

大正七年度の報告書なり。體裁はすべて既刊の分に同じく、本文六十頁、圖版四十六葉、附錄八頁より成り、收むる所佐藤委員